

## 【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 □障がい者施設 □子ども施設 ■住宅  
 〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 〔補助金〕 □内閣府 □国土交通省 ■厚生労働省  
 〔建物形式〕 ■1棟単体型 □複数棟集合型 □団地型 〔建物状況〕 □新築 □増築 □改修 □一部改修 ■既存  
 〔対象者〕 ■高齢者 □障がい者 □子ども □ファミリー □多世代



写真1. 建物外観

介護医療院恵寿鳩ヶ丘は、石川県で第一号の介護医療院である。介護医療院とは、2018年4月から創設された、医療の必要な要介護高齢者の長期療養、および生活施設であり、同施設は介護医療院のモデルケースとしての役割を担っている。医療と介護を同じ施設内で受けることができ、入居者にとって安心して生活できる場所になっている。

## ■施設概要

所在地 : 石川県鳳珠郡穴水町字麦ヶ浦 15-39-8

運営事業者: 社会医療法人財団董仙会

敷地面積 : 7100 m<sup>2</sup>

延べ床面積: 5212.89 m<sup>2</sup>

構造規模 : 地上5階

設備・諸室: レントゲン室、CT室、診察室、訓練室

併設施設等: 恵寿鳩ヶ丘クリニック

定員数 : 入所143名、通所25名

入居者の平均年齢: 85.7歳

平均要介護度 : 4.15 ~ 3.95

## ■運営概要

2018年現在、介護療養病床の廃止に伴い、医療依存度が高く介護施設にも入れない要介護高齢者の退院先の確保が喫緊の課題となっており、その課題を解決すべく生まれた、住まいと生活を医療が支える新たなモデルが介護医療院である。

介護医療院恵寿鳩ヶ丘は、介護療養型の介護老人保健施設から介護医療院に参入した例であり、石川県で第一号の介護医療院である。

能登半島で先端医療から福祉までを担う「けいじゅヘルスケアシステム」の一員であり、信頼の心、思いやりの心、健全な経営、職員の健康と幸せを理念に運営している。また、介護医療院恵寿鳩ヶ丘は、法人内では患者



写真2. 周辺状況(Google マップより)

のと里山空港からバスで10分弱、精育園前より徒歩1分の自然豊かなところにある。バスの本数は少なく、県庁所在地である金沢からはバスで2時間ほどかかり、交通の便が良いとは言えない。



写真3. CT室

クリニックには、こういった施設には珍しいCTが設置されている。週に二回程度の頻度で利用されている。

#### 参考文献

・ 社会福祉法人財団董仙会「介護医療院 恵寿鳩ヶ丘」〈[http://www.keiju.co.jp/about/facility.html?faci\\_name=facility\\_kaigo\\_hato](http://www.keiju.co.jp/about/facility.html?faci_name=facility_kaigo_hato)〉(2018.6.6 参照)

見学日時：2018.5.30

見学者：東京電機大学 建築・計画研究室

学部 4 年 押尾萌加

高橋亮哉

榎村賢

修士 2 年 齋藤亮太



写真 4. 居室近くにあるスペース

主に患者に会いに来た家族が座るためにあるスペース。高めの段差があり、そこに腰掛けることで車椅子の患者と目線を合わせて会話することができる。家族の休憩するスペースとして利用される。

の受け皿、病院から退院した患者の退院先としての役割を担っている。加えて、身内に限らず能登半島の各市町村の総合病院とも地域連携しており、同様の役割を担っている。患者の情報は電子カルテで共有されており、退院先として患者を受け入れる際も、患者に関する情報共有がスムーズにいくようになっている。

また、午前 11 時には施設内でラジオ体操が流れ、利用者と職員と一緒にラジオ体操を行っている。

#### ■建物について

建物は地上 5 階建てになっており、1 階にはクリニックが併設されており、2～4 階は居室、5 階は浴場になっている。

1 階はクリニックや訓練室があり、通所の方も利用するスペースになっている。クリニック等の医療部門は、裏のスタッフ用通路からすべてつながっており、各室間の連絡、動線が短くなるように工夫されている。

2～4 階にはナースセンターと食堂が中心部に配置されており、食堂のスペースを利用してリハビリやレクリエーションを行う。

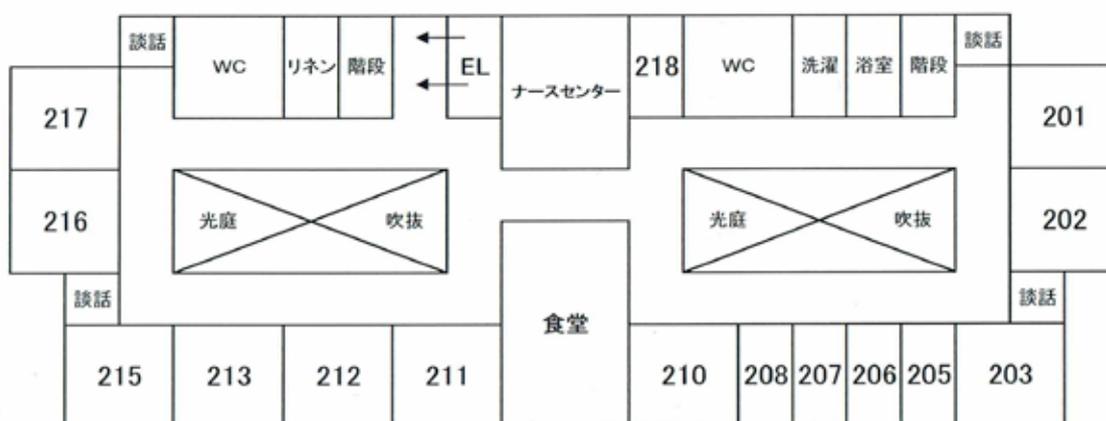


図 1. 2 階平面図

2~4 階の間取りはほとんど同じで、中央にナースセンターと食堂を設け、左右に居室が配置されている。

また、光庭が設けられており、窓に面していない居室周辺の廊下も明るくなるよう工夫されている。

介護医療院に転換するにあたり、プライバシーを守るため視線を遮るものが必要になったため、2人部屋には移動式のパーテーションが設置されている。しかし、それによってベッドの出し入れや部屋が狭くなり移動が大変になるなどのデメリットもある。

5階の浴場は、穴水の自然豊かな美しい風景を一望できるようにになっている。

### ■ターミナルケアについて

介護医療院の特徴の一つである「看取り」を同施設でも行っており、本人と家族の意向に合わせたケアを行っている。また、入居者の7割が自宅へ戻らずに施設内で亡くなっていく。

ナースセンターの隣の個室が、ターミナル期、死の間近に、追加の料金なしで利用出来る、所謂看取りをするための部屋になっており、この部屋は他の部屋よりも面積は広く、家族の希望があれば家族が寝泊まりするためのベッドを運び込む等の配慮もされている。

### ■介護医療院になるにあたって

恵寿鳩ヶ丘が介護医療院となったきっかけとしては、穴水町のある奥能登地域の高齢化率が、日本の平均である26%を大きく上回る44%と高い数値であるところにある。医療ニーズの高い、行く当てのない高齢者の駆け込み寺的役割を果たすとともに、高齢化率から見て、20年後の日本のモデルケースとしての位置づけもある。

介護医療院に転換したことで生じた変化として、まず介護医療院側からは、従来の高齢者施設では、定期的な検査のために病院へ移動しなければいけなかったところを、同施設内でできるために移動の労力やコストが減ったという利点と、患者の居室のパーテーションによる物理的な動きにくさという欠点が見られる。利用者の側からは、「介護医療院」という名前によって、介護と医療の両方を行っている施設であるということが伝わりやすくなった、という点が上げられる。

今後の展望として、1階にあるスペースを利用して、交流サロン等の、高齢者を預けるだけでなくその家族たちが交流する場を設け、地域にアピールし、介護医療院の認知度を上げるとともに、地域の中の介護医療院の位置づけを確立させていくことを目標としている。



写真5. 2人部屋

介護医療院への転換にあたり、個人のプライバシー配慮の必要性が上がり、ベッドとベッドの間にパーテーションが設けられている。



写真6. 4人部屋

2人部屋と違い高いパーテーションはないが、ベッドとベッドの間にある棚が、丁度ベッドに寝た際に視線が通らない高さになっており、目隠しの役割を担っている。



写真7. 個室

この病室は、ナースセンターのすぐ隣にあり、終末期の患者が追加料金なしで利用できる個室になっている。手前の扉は、ナースセンターに直接つながっており、緊急時の対応がしやすくなっている。